

2010年度一般入試前期A日程（2月4日実施）

国語問題

I. 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題は、14ページです。どのページも切り離してはいけません。試験時間中に、印刷の不鮮明や落丁・乱丁等に気づいた場合は、手を挙げて知らせてください。
3. 試験開始までに、監督者の指示にしたがって、解答用紙の所定欄にそれぞれ正しく記入し、マークしてください。
 - ①氏名欄 あなたの氏名・フリガナを記入してください。
 - ②座席番号欄 座席番号を記入し、マークしてください。座席番号の記入のないもの、またはマークのないものは0点となります。
4. 解答用紙には、HBの黒鉛筆(シャープペンシル可)を使用し、はっきりと丁寧に記入してください。ボールペン、万年筆、サインペンなどを使用してはいけません。また、答えを訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消してから記入しなおしてください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、汚すことのないように注意してください。
6. 問題用紙は、試験終了後、持ち帰ってください。

II. マークシート方式の解答に関する注意事項

1. HBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で、記入枠の中の○を完全に塗りつぶしてください。マークが不完全な場合、解答が正しくても正解と判断されませんので、注意してください。

<正しい例>

ア	①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---	---

 ※たとえば、アと表示のある問いに対して「3」と解答したい場合は、左記のように、解答記号アの解答欄の3を完全に塗りつぶしてください。

<悪い例>

ア	①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---	---

 ※左記のような記入はしないでください。

2. 解答は、すべて解答用紙の解答記号(ア～ホ)に対応した解答欄にマークしてください。
3. 一度記入したマークを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおしてください。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

静賢法印のもとに、馬の允とやうながしとかや、ゆゆしく力強く、けなげけなげある男ありけり。或る時こともあらぬ小冠まこと双六まじろをうちけるほどに口論おしあがりて、この小冠を引きよせて、へそのしもを突きてけり。つかぐちまで突きたりければ、いきごとすべくもなかりけるに、小冠すこしもおどろきたる気色けしきもなし。やがてかたきにしがみつきて、刀をうばひとりて、さしも大力の大男をおし伏せて、うへに乘らへて刀をさしあてて、すでに殺してむとしけるが、いかが思ひけん、まづ我が腹をかきいだして、きずを見ていふやう、「汝これほどになりたれば、害せん事とどこほりあるべからず。但しわがきず痛手にてかならず死ぬべき身なり。功德に汝が命助けん。最後に罪つくりてよしなし」といひて、事なく(1)ておけり。(2)さて、法印の前に行きて、「かかることこそ候ひつれ」とて、事の次第はじめより申しして、やがてたふれ伏して死ににけり。ゆゆしかりける剛の者なりかし。

かたきの男、日ごろ大力の者として人におぢられつれども、さばかりの小冠をかたきに得て、突(b)き殺したるだに思はずなるに、はてにはへし伏せられて、刀うばひとりたれて、すでに害されぬべかりけるが、慈悲に任してゆるされにける、日来の剛の者のおぼえ、何のやくかはべるや。かの男、この事を悔いて、死にたる小冠が父のもとに行きていひけるは、「われかかるあやまりを仕りてはべり。すでに殺されぬべかりつるを、しかじかのたまひて、命をばゆるし給へるなり。悔いてもあまりあり。かの怨敵おんてきなれば、はやくいかにもし給ふべし」といひけるを、父聞きて、「思ふやうありてこそ、さやうにもゆるし申しけめ。汝を殺したりとても、我が子いき歸りて来まじ」とて、ともかくもせざりけり。その時この男、やがてそこ(ま)にてもとどり切りて、かの父にとらせて、「高野へ」とてぞ行きける。

人を害すほどにては、このやうもまたしかるべからず。事におきて、不覚なりける男なり。さりながら一旦も発心して、かしらを剃りて高野にこもりにけるこそ、先世(ま)の善知識なれ。

(出典 「古今著聞集」)

注1 けなげある||勇猛な

注2 小冠||小冠者の略で、元服して間もない少年のこと

注3 もとどり||頭上でたばねた髪

注4 善知識||仏縁

問1 〓線(a)、〓線(b)の「て」の説明として、最も適當なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- ① 接続助詞 ② 完了の助動詞「つ」の未然形 ③ 完了の助動詞「つ」の連用形 ④ 動詞の活用形の一部

問2 〓線(1)「よしなし」の意味として、最も適當なものを、次の中から選び、番号をマークしなさい。

- ① 無益である ② 関係がない ③ 気持ちが乗らない ④ 手段がない

問3 〓線(2)「おりぬ」、〓線(4)「し給ふ」は誰の行為か。最も適當なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- ① 静賢法印 ② 馬の允なにがし ③ 小冠 ④ かたきの男 ⑤ 小冠の父

問4 〓線(3)「すでに殺されぬべかりつるを」の解釈として、最も適當なものを、次の中から選び、番号をマークしなさい。

- ① 必ず殺してやると決意していたのですが

- ② すぐさま殺されるべきだったのですが

- ③ 今にも殺されそうになりましたが

- ④ すでに殺されていたのですが

問5 本文の内容に合っていないものを、次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- ① 馬の允は、つまらないいさかいかから小冠を殺してしまったことを後悔した

- ② 語り手は、馬の允が小冠の父親にもとどりを渡して出家したことを立派だとほめた

- ③ 小冠は、息絶える前に、馬の允との間にあった一部始終を静賢法印に話した

- ④ 小冠の父は、故人の遺志を尊重して、馬の允に一切手を出さなかった

(b)

イ

 (a)

ア

ウ

ウ

(4)

オ

 (2)

エ

カ

カ

キ

キ

Ⅱ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

アジアは言説による認識の対象であり、思想や制度が連鎖していく場であったが、同時にまた諸民族が競合し、相互交渉を重ねてきた空間でもあった。そこは、なによりも多くの国家や民族が敵対しつつ、連携を求めてせめぎ合う闘争場裡としてあったのである。(①)

A、その諸民族のなかには外部世界から圧倒的な武力と経済力として文明を携えて、自己の権益を最大限に拡大することを試みる欧米からの来訪者も含まれていた。近代においてアジアは植民地獲得のための沃野として、欧米人の栄光と欲望を充足させる場としてもあった。それに対し、アジアの多くの民族にとって自らの故地は、奪われたる大地と島嶼の群れとして、奪回の対象として眼前に広がっていた。

B、いまだ植民地化されていない他のアジアの民族にとって、アジアは優勢な西洋文明を相対化し、拒絶するための塹壕でもあったのである。

しかも、四囲にしのぎを削る民族がひしめき合うなかで政治社会としての存続を図るためには主権国家としての自己確立が必須の要件とされたため、国境線の内部での均質化と国境線の外側との差異化をとともに図ることがめざされていた。(②)

アジアにいかに関わるかという課題については、自己の否定すべき文化や政治社会のありかたを全てアジアに淵源を持つものとみなし、あたかも自己憎悪の転嫁のごとくに、アジアからの脱却が語られ、政治的プロジェクトとしては、「アジアに在って、アジア的であつても、アジアではない」という方向、いわゆる脱亜が近代日本においては主潮であったことは、よく知られている。

C、投企としてのアジアを考えるにあたって重要なのは、むしろその対極にあったアジア主義の論策と外交の交錯がいかなるものとして現われたかという問題である。もちろん、日本における投企としてのアジアは単なる言説にとどまることが多かったにしても、言説によってある空間秩序を表象するという行為もまた、ひとつの政治行為として地域世界を構成する要因となるのである。(③)

しかも、投企が現状を変更するための行動を伴っていた以上、それが現実にいかなる状況・制約の下に置かれ、外交としていかに展開されたかを解明しないかぎり問題の実態には追れない。アジア主義とは日本人が自らを取り巻く地域世界をいかに認識しつつ、そこにいかに係わり、どのように変えていこうとしたか、という実践に結びついた構想の表明であったと考えれば、日本のアジア主義はアジアについての幻想にすぎなかったかもしれないが、同時にそこに他の民族の人々との共同行動があったことも間違いないのである。意識とは常に対象に立ち向かう作用の中で立ち現われるが、実践を通じて思想もまた形成・転化されていく。アジアという場において、ある意識

をもつて係わることも、それ自体が対象そのものを変え、それがまた跳ね返って意識を変えていくことになった。ただ、それが外交政策にいかに関与されたかは検討を要する。なによりも、日本への支援を求めて来日したアジアの人々の処遇をめぐって、欧米の宗主国の意向に従わざるをえなかったことに、アジア主義の **D** が如実に現われていたのである。(4)

いずれにしても、投企としてのアジア主義は、日本人だけがアジアの中で唯一、アジアの自立と諸民族の解放に対して特別の責任を持つという国民的使命感を基盤として展開していった。むしろ、自らが弱小であるとの自意識が明確であった時代には、アジアの振興を中国や朝鮮などの連帯によって進め、欧米の進攻に対して異義申し立てを行なうことが企図された。しかし、一八九五年以後、自らがアジアに植民地を領有したことによって、本来、日本がアジアにおける植民地解放を唱える資格は失われたはずであった。にもかかわらず、日本はアジアに在ることを理由として、植民地統治に虐げられる側に立つことができた。アジアという存在は欧米の植民地統治に抵抗するための根拠地とみなされ、その盟主である日本は欧米を排除してそこに進出することが正当化された。もし、日本がアジアという地域世界になかったなら、その植民地領有は本質的に欧米と全く変わるところはなかったはずである。そして、領有された側からみれば、当初、**E** を掲げて接近してきた日本に、アジアの同胞ないし同種の解放という美辞麗句をもって支配されることは、優越した文明をもった異種の欧米人に支配されるよりは、はるかに屈辱感と反感を惹き起こすことになった。しかも、ウイルソンの民族自決主義やロシア革命の影響を受けることによって興隆したアジアの民族運動は日本のアジア主義と対立するようになり、日本はこれを回避するために民族自決思想を民族対立を招く誤った思想とみなしてこれを排斥し、民族協和を標榜したのである。(5)

こうした側面に着目したとき、国家・民族の超越主義としてのアジア主義は、それが連帯思想に偽装された侵略思想にすぎなかったとしても、一方で欧米主導の既成の主権国家からなる国際秩序においてしか外交ができないう制約や疎外感への挑戦のプロジェクトとして、また欧米への平準化という強圧に対する抵抗のプロジェクトとしてあった側面を勘案しておく必要がある。なにより、アジアにおいて日本が新たな地域秩序を形成するにしても、中国やタイなどを別にすれば実際上の外交交渉の主体は植民地の宗主国である欧米諸国であった以上、その実現のためには欧米が設定したルールに従うしかなかったからである。(6)

投企の問題は、このように国際政治秩序の条件によって大きく制約されており、それを変更していこうとするプロジェクトとしてのアジア主義を考えるためには、相互交渉を成り立たせている国際秩序体系と過程との分析を欠かすことはできない。つまり、アジアという

区域を想定しつつ、そのなかで人々が行動するとき、それはけっして真空の自由な空間においてではなく、従来の国際秩序体系と慣習に拠ることを条件づけられている。しかし、この条件に従いつつ行動するなかで、その条件自体が変容していき、新たな体系として再編成された繋がりと広がりをもった地域世界が現われてくるのである。壮大な幻想に終わったとしても、日本が想定した大東亜共栄圏は主権・国民国家体系を否定し、八紘一字としての新たな地域世界秩序の創出をめざすものであった。しかし、それもまた、けっして従来の国際秩序体系と慣習から自由であったわけではなく、そこには、かつての朝貢・冊封体系の影が反映していたのである。もちろん、そこに住む他のアジアの諸民族にとっては、日本のアジア主義というプロジェクトも **F** にすぎず、それは欧米からの圧迫と日本からの圧迫とが二重性をもって、のしかかってくることで現われたにすぎなかった。しかしながら、日本人にとってアジアという空間だけが、国際政治の現実をいかに見、それにいかに働きかけていくかという課題にかかわって、主体的に活動できる唯一の限られた地域世界であったことも否めないのである。(⑦)

(出典 山室信一「思想課題としてのアジア」なお問題作成上、一部省略してある)

問1 空欄 **A**、**B**、**C** に入れるのに最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

A ① むしろ ② そして ③ さて ④ ようするに

B ① いわゆる ② さらに ③ かつて ④ それでは

C ① ところで ② あるいは ③ すなわち ④ しかし

問2 空欄 **D**、**E**、**F** に入れるのに最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

D ① アイデンティティ ② パラダイム ③ ディレンマ ④ リアリズム

E ① 近親性 ② 社交性 ③ 利益性 ④ 現実性

F ① カテゴリー ② ソシオロジー ③ モダニティ ④ イデオロギ

カ	オ	エ	ウ	イ	ア
---	---	---	---	---	---

問3 本文中、次の一文が省略されている。(①) (⑦) のどこに入れるのが最も適当か、番号をマークしなさい。

キ

一八七九年の琉球「処分」はまさにこうした国境確定のために強行された外交措置であり、これによって日本はそれまで中国の王朝に対する朝貢・冊封体系として存続していた地域世界の秩序を否定し、主権国家体系としてアジアを再編することに邁進していったのである。

問4 アジアにいかに関わるかという問題に関して、近代日本の主流となった方向性はどのようなものであつたと、本文中には記されて

ク

いるか、最も適当なものを、次の中から選び、番号をマークしなさい。

① 日本はアジアに位置しているものの、すでに充分成熟した文明を実現しており、西洋文明に対しては、必要と判断されたものだけを取り入れていくという方向性

② アジアの精神文化を共有してきた日本の歴史を尊重し、軍事力と経済力のみで文明の進歩を測定しようとする欧米諸国のありようを否定する方向性

③ 日本はアジアに位置し、アジアの文化を共有しているが、今後はアジア的な文化や社会制度を否定し、西洋の文明を取り入れていくという方向性

④ 日本社会に蔓延するアジア的性格は時に憎悪の対象ともなるが、しかし、どうすることもできない以上、宿命として受け容れていくほかないという方向性

問5 本文中に記されている「投企としてのアジア主義」の説明として、最も適当なものを、次の中から選び、番号をマークしなさい。

ケ

- ① 日本のアジア支配を偽装する侵略思想であった反面、西洋列強による植民地統治を形態とする世界秩序の変革を迫る政治理念
② 欧米列強による植民地支配を否定して、アジアの諸民族がそれぞれに近代化と民族自決を実現していくよう導いていこうとする政治理念

- ③ 欧米列強によるアジア侵略を称賛し、日本もまた西洋諸国と足並みをそろえ、文明の名の下にアジアの植民地化を推し進めようとする政治理念

- ④ 古来より東アジアで共有されてきた朝貢・冊封体系に基づく国際秩序を復活させ、西洋列強にもそこへの参画を求めていこうとする政治理念

問6 本文の内容に合うものを、次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

コ

- ① 日本人はアジアに植民地を領有した後もアジアの解放を主張し続けたが、これは国際法上、許容の範囲内にある行為であった

- ② 日本のアジア主義とウィルソンの民族自決主義は本来、同じ方向を指すものであったが、当時はその事実にも誰も気づいていなかった

- ③ 近代の日本人にとって、国際的な世界秩序の中でアジアだけが主體的、能動的に働きかけることのできる空間であった

- ④ 近代日本は、国民国家を単位とする国際的な世界秩序との対決を極力避けようとしたため、結果的に、その国家目標であったアジアの解放は失敗に終わった

Ⅲ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自然を科学的に把えてみた見方としての進化論という問題について、いかにこれが宗教と科学、東洋と西洋の接点に立つ問題となるかを明らかにしてみたい。わが国では一般に進化論という科学であり、それはキリスト教による宗教的世界観に対抗するものとして理解され勝ちであるが、実際はそれほど単純なものではない。(①)

『自然の復権』の著者、大河内了義はヨーロッパ滞経験を基にして、「キリスト教の神は死んでいない」ことを強調している。

A

日本人は自然科学と対立するものとしてキリスト教を把え、自然科学の発達によって「神が死んだ」などと浅薄な理解をしている人が多いが、自然科学とキリスト教の関係はそれほど単純ではなく、一見キリスト教に反するものと思われているような考えも、キリストの神の支えをもっていることを、われわれは認識しなくてはならないと、大河内は強く主張している。筆者もこれに賛成であり、マルクス主義、フロイトの精神分析、進化論なども、そのような観点から考えてみる必要があると思っている。ここでは「自然」との関連において進化論を取りあげる。(②)

自分の専門とまったくかけ離れている進化論をここに取りあげたのは、わが国において独自の進化論を提唱している今西錦司の考えをここに述べるのが、われわれがここまで問題としてきたことと極めて密接にかかわるものと考えらるからである。日本人の自然観について興味深い論を展開した源了圓は、その最後に今西の業績に言及し、「日本の文化から当然出るべくして出たものであり、同時代の日本人として誇りに思う」と賞讃している。欧米人とは異なる日本人の自然観がその説に反映され、ユニークな論となっているのである。

今西錦司が「進化論研究の締めくくりとして」最近に発表したものから、少し長くなるが引用してみよう。「ここにダーウィニズムというのは、単なる理屈だけの問題でなくて、さきに私の心配しておいたとおり、なにか西欧人の心底にアピルするものがあるのだろうか。それは長い間にわたって培われた彼我のあいだの自然観のちがいが、あるいは生物観のちがいがいったようなものが、彼我のあいだの進化論のちがいとなって、反映しているのでなからうか、と疑いたくなる。こうなったらダーウィニズムは生物学上の一セオリーというよりも、むしろ一つの B として取りあげたほうがよいのかもしれない」と彼は述べている。ここで「さきに私の心配しておいた」と言っているのは、ダーウィニズムにおける適者生存の考えが競争原理に基づいており、それは「神様はつねに C の味方をして

ているということだ。そのへんのところは、キリスト教徒である西欧人には魅力的なのか、今年はダーウイン没後一〇一年目だが、いまだに共鳴者がたえない」という点なのである。つまり、進化論などということはほとんど科学的検証に耐えられぬようなものであるのに、自分たちのもっているキリスト教的自然観と合致するために、それが正しいと思ひこんでしまう欠点を、今西は明確に指摘しているのである。このような点は今西自身が言うとおりに、「これは西洋から見えていたらわからないことですよ、東洋から見ているからわかるかもしれない」ということであろう。

今西による進化論は、ダーウインの競争原理に対して「棲みわけ」による共存原理によるところがまず大きく異なる。それと何よりユニークなところは「種社会」という概念の立て方であろう。欧米の学者が生物の「種」を問題とするとき、今西は「種社会」という全体的な捉え方をする。種社会の個々のメンバーは種社会の構成員として、その維持に寄与している。

D、このような種社会はより大きな生物全体社会(Holospacial)を構成している。このような考えに従って、今西は、「われわれの見る生物的自然は、生存競争の場ではなくて、種社会の平和共存する場であると見るから、私に進化とは種社会の棲みわけの密度化である、という言葉も生まれてくるのである」と述べている。

今西はこれまで「個体発生は系統発生をくりかえす」と言われてきたが、これを逆にして、「系統発生(進化)は個体発生をくりかえす」という「まことに大胆な類推」を行い、一つの個体が受精卵から出発し分化発展して、変るべくして変ってゆくように、進化においても、「変るべくして変る」のであり、ダーウインが言うように、突然変異によって生じた個体が生存競争に勝ち、「適者生存」を行って進化が生じるという説と、まったく異なる立場をとるのである。

このような今西説は、これまでに述べてきた論議と関連させるならば次のように言えるであろう。今西は自然^{ネイチャー}についての進化を語っているのではなく、自然^{じけん}の方に近い現象について語っている。その世界は極端に言えば、「物我の一体性、すなわち万物と自己とが根元的に一つである」という福永^{フクナガ}の言葉に示される世界なのである。ダーウインニズムにおいては、突然変異によって生じた個体が「みずから」の力によって適応するところに進化の本質を見ようとするのに対して、今西説では、「存在」の「おのずから」なる変化に進化の本質を見ようとしている、ということが出来る。(③)

ここに示した今西の自然観は、東洋の「自然^{じけん}」の方にひきつけられたものであると言えるだろう。今西が自分のそのような自然観を

「自然と一つになる。自然にかえる、あるいは又自然に抱かれるという事ですね」と言い、そのような自然観をもつようになったひとつの体験として、次のようなエピソードを話しているのは非常に興味深い。(4)

今西がまだ二十歳くらいの時に岩登りにゆき、岩壁を登った。がむしやりに登っていったが、途中でけわしくて登れなくなった。登るに登れず下るに下れず、まったく進退窮まって絶望の淵におち込んでしまった。その時突如として、非常になごやかな気持に包まれた。このことを今西は、「それは昔の修験者が山の中の岩窟にこもって一週間行をしておりますと、一週間目に紫の雲にのつて大日如来が現われるという。そういう風にしたものを読んだ事があるのですが、紫の雲も、大日如来も現われただけでも、先程言いました大慈・大悲といった自然の本質と言いますか、そういうものに触れたんですね。それで進退窮まったという事も忘れてふと見上げたら一条のルートがみつかった」と語っている。(5)

このような体験に支えられて、今西は生物の世界を「自然」に見る態度を身につけていったと言えるであろう。E、それが生物社会における理論として結実してゆくためには、大学卒業後、一〇年間にもわたって、ひたすらカゲロウの幼虫の生態を観察し続けるような努力が必要であったことも忘れてはならないであろう。

(出典 河合隼雄『宗教と科学の接点』なお問題作成上、一部省略してある)

注1 今西錦司 一九〇二～一九九二、日本の生態学者・文化人類学者

注2 源了圓 一九二〇～、日本の歴史学者

注3 福永 福永光司、一九一八～二〇〇一、日本の中国思想史の研究者

問1 空欄 A、D、E に入れるのに、最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|------|---|---|------|---|---|-----|
| A | ① | ① | ② | かえって | ③ | ③ | つまり | ④ | ④ | いわば |
| D | ① | ① | ② | なぜなら | ③ | ③ | すなわち | ④ | ④ | たえば |
| E | ① | ① | ② | さて | ③ | ③ | しかし | ④ | ④ | むしろ |
| | | | | | | | | | | つまり |

ウ	イ	ア
---	---	---

問2 空欄 B、C に入れるのに、最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

B ① 神話 ② 対話 ③ 逸話 ④ 実話

C ① エリート ② 科学者 ③ プロレタリアート ④ 弱者

問3 本文中、次の一文が省略されている。(1) (5) のどこに入れるのが最も適当か、番号をマークしなさい。

このように考えると、今西の「変るべくして変る」という言葉の意味がよく了解される。

問4 線(1)「そのような観点」の説明として最も適当なものを、次の中から選び、番号をマークしなさい。

① キリスト教を自然科学と対立するものとして考える見方

② グーウェイニズムがキリスト教的自然観と合致するという見方

③ キリスト教と矛盾するような考えにも、キリスト教的世界観が潜在するという見方

④ 日本文化をキリスト教に基づく宗教的世界観に対抗するものとする見方

問5 線(2)「彼我のあいだ」の説明として最も適当なものを、次の中から選び、番号をマークしなさい。

① 自然と科学のあいだ

② グーウェイと今西錦司のあいだ

③ 欧米人と日本人のあいだ

④ キリスト教徒と仏教徒のあいだ

問6 線(3)「生物の世界を「自然」に見る態度」の説明として最も適当なものを、次の中から選び、番号をマークしなさい。

① 人間とその他の生物とを明確に区別し、生物の世界を客観的対象として見る態度

② 生物の世界は競争原理に貫かれており、適者のみが生存を許されると見る態度

③ 万物と自己とが一つであると考え、生物の世界をおのずから変化する世界と見る態度

④ 生物を自然の一部と考え、生物の世界を弱肉強食の生存競争の世界と見る態度

ケ

ク

キ

カ

オ

エ

問7 本文の内容に合うものを、次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

コ

- ① ダーウィンの進化論はキリスト教的世界観に通じているが、今西錦司の進化論は東洋の自然観に通じている
- ② ダーウィンの進化論では自然を科学的に捉えているが、今西錦司の進化論では生物学的に捉えている
- ③ ダーウィンの進化論では生物全体社会における種同士の競争が強調されるが、今西錦司の進化論では種社会の内部における個々の競争が強調される
- ④ ダーウィンの進化論では系統発生が個体発生をくりかえすとされたが、今西錦司の進化論では個体発生が系統発生をくりかえすとされた

Ⅳ 次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の説明にあてはまるものを、それぞれの選択肢の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- 1 夫の領地相続問題の訴訟のため鎌倉へ下った妻の、紀行と滞在記からなる作品
① 『海道記』 ② 『東関紀行』 ③ 『更級日記』 ④ 『十六夜日記』
- 2 谷崎潤一郎の、日本の伝統美に関する評論
① 『卍』 ② 『陰翳礼讃』 ③ 『刺青』 ④ 『春琴抄』
- 3 森鷗外が、写実主義の坪内逍遙と交した論争
① 目的意識論争 ② 没戯作論争 ③ 反自然主義論争 ④ 没理想論争
- 4 平安時代の詩歌集
① 『和漢朗詠集』 ② 『金塊和歌集』 ③ 『懷風藻』 ④ 『新葉和歌集』
- 5 『源氏物語』の枠組みに重ねて構成された、井原西鶴の浮世草子
① 『日本永代蔵』 ② 『世間胸算用』 ③ 『好色五人女』 ④ 『好色一代男』

オ

エ

ウ

イ

ア

(2) 次の空欄 に入れるのに最も適当な語を、それぞれの選択肢の中から選び、番号をマークしなさい。

1 開 一番

① 功

② 講

③ 港

④ 口

⑤ 香

2 怪力 神

① 乱

② 卵

③ 嵐

④ 濫

⑤ 爛

3 加 祈禱

① 地

② 時

③ 児

④ 持

⑤ 寺

4 佳人 命

① 白

② 迫

③ 薄

④ 博

⑤ 剥

5 花 風月

① 帳

② 蝶

③ 調

④ 彫

⑤ 鳥